

世界の中の日本を 意識しよう

神永 晋

住友精密工業株式会社 代表取締役社長



マグニチュード9.0の大地震、さらに想像を絶する巨大津波に襲われた3月11日から既に4ヶ月以上も経過した今なお、被災された皆さんは依然として過酷な生活を余儀なくされ、被災地の復興も思うように進んでおりません。そして、何と言っても、その地震、津波によって引き起こされた福島第一原発事故は現時点に至っても終息の方向が見えないという状況です。被災地の皆様に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、原発事故については一刻も早く事態が改善されることを望むばかりです。このような未曾有の災害に遭遇しながらも、被災地の皆様が見せた秩序ある行動、他人を思い遣る振る舞いに対して、海外から驚きと賞賛のメッセージが、震災勃発当初から次々と寄せられたことは周知の通りです。しかしながら、被災された皆様の辛苦に頼るばかりでなく、復興のための実効ある緊急対策が望まれるところであり、それで初めて海外の高い評価に応えられるものと思います。今回の東日本大震災に際して、いろいろな教訓を得たと感じる方は少なくないのではないのでしょうか。安全とは何か、災害に遭遇した際の対応はどうあるべきか、日本人としてこの事態をどのように捉えるべきか、等々、真剣に考えるべき多くの点に気付かされたかと思います。

その中で最も気になることは、震災復興に関して国の内側にのみ目を向けて議論される傾向が強いことです。勿論、復興そのものは、国内における対策実行であるわけですが、その施策の内容、実行計画、復興の先にあるビジョン、等々、日本がどのように立ち向かおうとしているのかについて、海外諸国が大きな関心を持って注目しています。これは、その一方で、日本の意志・実行力を海外に知らしめる絶好の機会であると言えます。しかしながら、現実には、日本人の海外に向けての発信力の弱さ、海外の力を有効に使うという視点の欠如、つまりはグローバルな視点の貧弱さがこの震災で如実に表れたように思います。この点は以前から気になっていたことで、折角の日本の強みが世界における日本の強みになっていないように思えてなりません。今回の震災でも東日本に位置する多くの企業の皆さんが世界のサプライ・チェーンの成否を握る位置にいることをまざまざと知るところと

なりました。このような世界に貢献できる日本の強みを失うことなくさらに強めていく方策が必須と思います。

日本社会は、同質の考え方を持った人たちが、お互いに阿吽の呼吸で相互に理解し合い、それなりに良い社会を築き上げて来たこと、よく言われます。反面、そのことが、論理に基づく議論を嫌う風潮を助成し、本当にやらねばならぬこと、先送りしてはいけないことを指摘すると、空気が読めない、として揶揄されることは珍しくないように思います。しかしながら、一旦日本の外に出ると、このような立場は全然理解されないどころか、誤解を招き自分たちを不利な立場に追い込むことになります。最近、FarmerかHunterか、という議論をする機会が少なからずありました。日本人は農耕民族、欧米人は狩猟民族と昔から言われてきたことに通ずるものですが、農耕民族とは、四季の移り変わりに順応し今年がだめでも来年頑張る機会がまた来るという長期的戦略に根ざすことを意味する一方で、ただただ他人の顔色を伺いながら成り行きに任せることを意味することにもなりかねません。反面、狩猟民族は、今、目の前にある機会を貪欲に追わないと二度とめぐり合うことはないかも知れないという観点から、受身に回ることなく積極的に取り組むという考え方であるかと思えます。それが、他人よりは自分本位という傾向を見せることにもなるかと思えます。私自身の経験に基づく私見を結論から言えば、日本人は、この農耕民族、狩猟民族のそれぞれの考え方を同時進行できる稀有の民族であるということです。それは、FarmerでありHunterであることが出来るということの意味します。欧米流の合理的な割り切り方でのみ対応することでなく、また、日本流のあいまいな行動で誤解を生むことも避ける、という実際問題として容易ではないことを実践するわけですが、これを実行できる資質を持っているのが日本人であり、日本国内のみならず海外に向けてしっかりと発信し、世界の舞台で貢献することが日本人の使命であると思います。自分自身微力ながら今まで以上にその観点から努力したいと思っていますし、多くの人たちの積極的な行動を期待するとともに、将来を担う若い世代への教育の点でも抜本的な変革を望んでいます。